

生徒が主体的に取り組む修学旅行

三重県四日市市立西陵中学校 教諭 今村 新次
教諭 坂倉 徳子

1. はじめに

(1) 本校の概要

本校は豊かな自然に恵まれ、製茶業をはじめとする農業の盛んな地域である。三世代家族が比較的多く、典型的な農村の構造を残している。しかしながら、近年、兼業化が進み、核家族化や両親の共働きも増えている。そのため、農村とサラリーマン家庭が混在することや世代交代が進んでいることから、保護者の価値観も多様化してきている。また、進学に対する関心は高く、多くの生徒が学習塾に通っている。

本校は1年2クラス、2年3クラス、3年3クラスと障害児学級1クラスの生徒数267名、職員数22名の中規模校ではある。年々地域の過疎化が進み、生徒数も徐々に減少傾向にある。



地域は、学校教育には協力的であり、学校が行事を行う際には、様々な面からの協力を仰ぐことができる。数年来、校区内の「小山田老人ホーム」との交流を大切にした学習活動や生徒会を中心とした地域でのボランティア活動も行っており、学校を出た学習活動も十分支えることができる状況にある。

(2) 生徒について

全体的に、素直で温厚、のんびりしている。ただ、自立心に欠ける部分が見られ、自ら行動することのできない生徒もみられる。授業への参加については受動的な面があり、活発な討論や自分の意見を発表するのが得意な生徒が多い。いやがらせをする生徒、集団になじめない生徒などの問題もみられる。そこで、それらを題材にしながら、互いの人権を大切にしよう学習を進めてきている。

社会はますます高度化・複雑化し、様々な問題も深刻化し、人間関係も複雑になってきている。それに伴い、教育でも学校内のみの学習活動ではなく、実社会へ飛び出し、学ぶ必要が出てきている。ものの学び方や考え方を身につけると同時に、自ら課題を見つけ解決したり、生き方を考えたりすることのできる生徒の育成をしていかなければならない。

2. 2学年の取り組み

1年生の時から「自分の良さに気づく」「お互いの良さを認め合う」ことをめざして、いじめの問題や障害を持つ人との共生などを題材にしながら、互いの違いを理解し尊重しあう姿勢を育てたり、老人ホームの訪問や地域での清掃ボランティアなど体験的な学習をしたりして、人権意識の高揚や自主性の育成を図る取り組みを行ってきた。

また、2年生では、「総合的な学習の時間」の取り組みとして「私の歩む道」をテーマに自ら課題を見つけ、自ら学び考える力、学び方や調べ方・発表の力をつけさせるために、テーマ設定、調べ学習、職場体験学習、まとめ学習など自分で計画を立てて進めてきた。その過程で自分らしさを発見し、自尊感情を育て、目的意識を持って学校生活を送れるようになることを目標としてきた。具体的には、自らの生きる道、将来を考えるための進路学習の一環として行った「職場体験学習」や、自分自身と周りの関係を捉えることや社会の様々なしくみについて学習することを主眼においた「社会見学」であった。

(1) 職場体験学習

数年前から本校ではボランティア体験活動をしたり、職場訪問や体験活動をしてきたが、以前は教師主導であったこの職場体験学習を、生徒の自主的な活動を中心に取り組んだ。

- ねらい…
- ・主体的に計画を立て、体験をして、自分の将来の進路について関心を持ち、自己の生き方について考える。
 - ・自分の適性や能力について知り、働くことの意義や目的について理解を深める。
 - ・体験活動で得られた仕事の内容、苦勞や喜び、資格や適性などについて、まとめ、発表する。

学習の流れ

- ① いろいろな職業について知る。
- ② 自分のなりたい職業、あるいは興味を持つ職業について調べる。(プレゼンテーションソフトの使い方)
- ③ 自分なりの課題を持って、職業について調べる。
- ④ 体験したい職業について調べ、訪問の計画を立てる。(インターネットの使い方)
- ⑤ アポイントメントをとる。(アポのとりかた、電話の応対について)
- ⑥ 体験前の訪問をし、職場体験学習の打ち合わせを行う。
- ⑦ 事前学習(交通手段、質問を考える、体験学習の心構えなど)
- ⑧ 職場体験学習(1日)
- ⑨ 体験先への礼状書き
- ⑩ 体験のまとめ
- ⑪ 今後の自分の生き方について考える。
- ⑫ 発表会(パソコン、壁新聞形式、紙芝居など自由な形式で)

職場体験先一覧

田中警察犬訓練所	スズキオート四日市株式会社	ザ・プラトンホテル
二見シーパラダイス	トヨタビスタ三重幸福村支店	一庵（喫茶）
ペットシティ尾平店	環境プランニング	イタリア料理 グノイ
株式会社 CTY	家づくり工房南山	白鷺笹川店
鈴鹿回生総合病院	MOZ 日永店	株式会社三重日立
市立四日市病院 水沢小学校	ビューティサロン 兵動 高花平保育園	元中日ドラゴンズ選手 森田通泰氏 野球の公式審判員（島海氏）
小山田小学校	スポーツランド四日市	四日市四郷高校サッカー部監督 北川先生
四日市市博物館	岸田保育園	四日市工業高校バスケット部監督 水谷先生
四日市日本語学校	トイザラス	

(2) 社会見学

昨年度の3月に実施した社会見学では、修学旅行の事前学習として、公共交通機関の利用の仕方や班別分散学習について、さらに壁新聞の作り方についても学習した。

この社会見学は、以下のような目的・日程・訪問先で行った。

- 目的**
- ・修学旅行の前段階として、社会のルールやマナーを身につける。
 - ・ボランティア団体、施設などの訪問を行い、自己的人権意識を高める。
 - ・班活動を通して、仲間の大切さを考える。

- 日程**
- 8:30 近鉄四日市駅（南改札口前）集合・出発式
↓
9:00 各班乗車（近鉄電車利用）
↓
名古屋市内班別分散学習(各班の行動表は次ページ)
↓
15:30 白川公園集合・解散式
↓
17:30 各地区バス下車



訪問先

名古屋国際センター、港防災センター、名古屋市税関広報展示室、エコバル名古屋など

3. 3 学年修学旅行の取り組みについて

2 学年での活動をもとに、自分を見つめ、仲間を見つめ、社会を見つめ、将来を展望できる力を身につけさせるために、今年度の学年指導目標を以下のように設定した。

- ・自分の良さに気づき、自己を確立する
- ・お互いの良さを認め合う
- ・今の自分の生活をしっかりと見つめ、将来へ目を向ける

そこで、総合的な学習の時間・道徳・特別活動で修学旅行の取り組みを行っていった。

(1) 修学旅行実施計画

1. 目的

- ・事前学習、当日の見学や体験を通じて、首都東京についての見聞・視野を広げる。
- ・集団行動を行う中で、社会のルールやマナーに触れながら、社会の一員としての自覚を深め自主性、実践力、協力性、思いやりなどの心を育む。
- ・在日コリアン問題の現地学習を通して、人権意識をさらに深める。

2. 期 日 2002年6月4日(火)～ 6月6日(木)

3. 目的地 東京方面

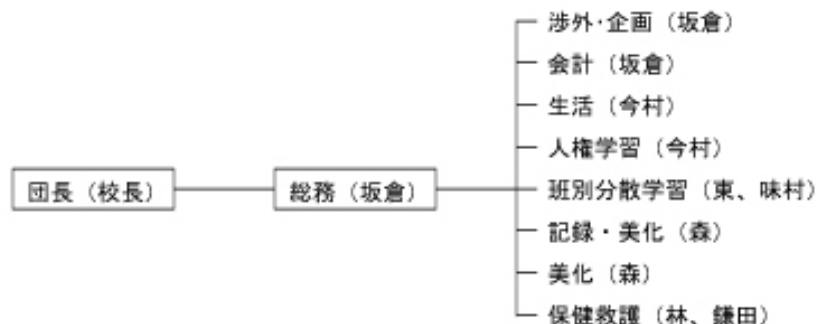
4. 宿泊地 6/4(火) ホテル海洋 6/5(水) シェラトン・グランデ・トーキョー・ベイ

5. 参加者 生徒 男子55名 女子50名 計105名

引率教師 男子 6名 女子2名 計 8名 総計113名

6. 服装、持ち物 … 実行委員会で検討

7. 指導組織



8. 生徒の活動組織



9. 行程表

西 陵 中 学 校

ご旅行先

東 京 万 葉

旅行期間 2002年 6月 4日(火)～6月 6日(木)

2泊3日(旅館・ホテル2泊、船・車中泊)参加人員 名簿

日次	日付(曜日)	行 程	宿泊地
1	6/4 (火)	※荷物前日搬送 旗切バス3台 ひかり142 菅原丸ノ内線 学校-----名古屋-----東京-----国会議事堂-----議員会館(昼食)----- 8:30 7:40 8:12 10:32 10:45 11:00 12:00 12:15 13:00 -----最高裁判所-----各省庁-----ホテル-----大久保-----新宿----- 13:30 14:30 -----ルミネtheよしもと-----新宿-----大久保-----ホテル 19:00 朝食 夕食: 幕ノ内弁当 21:00 21:30頃	< 新 宿 > ホテル 浦保 東京都目黒区2-22-7 TEL: 03-5368-1121 ※夜食あり
2	6/5 (水)	※荷物搬送 ホテル-----東京都内 班別 自主研修-----集合場所: 東京ディズニーシー正門前 ※リゾートライン 昼食: 自由食 集合時間: 15:30～16:00 ※チケット配布 -----東京ディズニーシー-----リゾートライン-----ホテル 園内自由研修 集合: 21:00 21:30 夕食: ミールクーポン ※ルームキー配布	< 舞 浜 > シェラトン・グランデ・ トークョー・バイ 東京都舞浜1-9 TEL: 047-355-5555
3	6/6 (木)	ホテル-----ふれあい館-----東元閣(昼食)-----山下公園・山手地区----- 8:45 9:20 11:00 11:30 12:30 13:00 14:30 -----ひかり221-----旗切バス3台 -----新横浜-----名古屋-----学校-----解散 19:30の予定 15:10 15:50 17:20 17:50 19:00頃 ※軽食補込	

大人料/1人 ----- 朝食補 ----- 昼食 ----- 夕食 ----- バス -----

(2) 事前の取り組み

【官公庁訪問に関して】

教師側から提示した資料は、各省庁などの簡単な紹介のみであり、生徒たちは、これ以外に社会の授業や新聞、ニュースなどから知識を得て、調べ学習として設定した限られた時間の中でインターネットを駆使して様々な方向から詳しく調べて、班で話し合い、訪問先を決定していった。

インターネットについては驚くほど生徒たちは慣れてきており、検索の仕方についても知っている名前を検索にかけるという方法を初めとして、政治・経済の用語や関連する人名を検索したり、東京都のホームページから入っていったりして、様々な方法を用いた。ただし修学旅行までギリギリ1ヶ月という切迫した事態であったことや最高裁判所前で解散してから、次にホテルに集合するまでの移動時間を差し引くと、見学時間は1時間あまりしかとれなかったこともあって、交渉は困難を極めた。



生徒たちは、インターネットで調べた後、ほぼ訪問先を絞ると、班で分担し、所在地や電話番号を調べて書き出す者、相手と交渉する際の言葉を考える者、実際の移動手段を調べ、時間を計算する者などに分かれて作業を開始した。各省庁のホームページは、当然のことながら個性豊かで、統一性がなく、サイトのリンクも深いので、省庁によっては電話番号一つ調べるだけでもとても難しいところもあった。また、その省庁の特性から、電話番号を掲載していないところもあった。つまづきながら自らの手でいろいろなことを調べていくことには大きな意義があったが、とても時間がかかると同時に、分担が下手な班では、こちらの指導が行き届かなかったこともあるが、やることなく遊んでしまうものも出てきた。

こうして、準備ができると実際に電話をする作業に入った。コンピュータ準備室の電話を使えるようになったので、調べてすぐに電話をかけられたのがとても便利だった。（電話が一つなので待ち時間が長い）また、一室で取り組みを行なったので、クラス間の調整などにも役立った。さて、実際の電話であるが、これは2年時の取り組みが生きて、考えた文章も話し方もなかなかのもので



あった。できれば、これまでに経験したことのない者をその任に就かせたかったが、これは時間不足のため難しかった。アポイントがとれた班は、正式な申込用紙をあるいは手書きで、あるいは、ワードを起動して作成にかかった。

文書の例は教師が提示したが、質問したい内容などは、班で話し合ってから書き込まなくてはならないので、非常に忙しい取り組みとなった。これをFAXで送り、そして実際の交通手段を調べて、訪問計画を立てた。

官公庁訪問先一覧

1 組		2 組		3 組	
1 班	憲政記念館	1 班	厚生労働省	1 班	内閣府
2 班	防衛庁	2 班	気象庁	2 班	環境省
3 班	海上保安庁	3 班	宮内庁	3 班	郵政事業庁
4 班	気象庁	4 班	食糧庁	4 班	環境省
5 班	海上保安庁	5 班	国土交通省	5 班	国土交通省
6 班	自民党本部	6 班	海上保安庁	6 班	宮内庁

【班別分散学習に関して】

学習する場を必ず一つ設定して計画を立てるというのをルールに分散学習を設定した。そして、この機会にしか学習できないものを選択しようということで、教師側から約50の施設をジャンルに分けて提示した。しかしながら、これも生徒たちの知識や行動力はなかなかのもので、こちらから提示しなかった大使館や文化施設を訪問先にした班も少なからずあった。大使館を訪問先に選んだ班の中には、英語やロシア語で対応されて困り果てていた班もあったし、学びたい内容や質問したいことをその場で聞かれて詰まってしまった班もあった。

班別分散学習は、夕方の集合までたっぷり時間があるので、移動範囲が広く、名古屋での分散学習の経験があるとは言え、交通手段を調べて計画を立てるのには時間がかかった。また、学習する場としての訪問先以外については、一人ひとり興味・関心が違うので、なかなか班内の意見をまとめるのも大変だったようだ。学習する場以外では、最終的にはお台場や渋谷を選んだ班が多かった。

3年1組2班

時刻	所要時間	行先	移動手段	費用、乗車券	備考、注意事項
8:30		木下公園			
	10分	...	徒歩		
8:40	5分	木下公園	JR中央線		
8:45	10分	新橋	都営丸根線		
8:55	1分	市川	徒歩		
8:56	8分	市川	徒歩		
9:04	1分	...	徒歩		
9:05	23分	東京大学	徒歩		
9:30	2分	...	徒歩		
9:33	3分	...	都営丸根線		
9:34	1分	...	徒歩		
9:48	14分	春日	都営三田線	240円	
10:53	5分	...	徒歩		
10:54	6分	...	徒歩		
11:05	10分	...	都営三田線		
11:15	5分	回生	JR山手線	150円	

時刻	所要時間	行先	移動手段	費用、乗車券	備考、注意事項
10:00	21分	① 渋谷		150円	乗車
10:27	25分	...	JR山手線		
10:49	15分	...	JR京浜線	380円	
10:52	10分		
10:55	3分	...	徒歩		
10:58		...	徒歩		
					合計金額 3080円

【川崎ふれあい館】

韓国・朝鮮の文化に触れるという内容で、ふれあい館への訪問を設定した。2学期には自分の将来の道を切り開くことや自分と社会との関わりを考えることを主眼にして進路や福祉・人権をテーマに総合学習を進めていく予定であるので、その取りかかりの取り組みでもあった。先方において、韓国の「遊び（文化）」「音楽」「ハングル（言葉）」の3つのジャンルを用意していただき、全体会の後は、班で希望したジャンルにそれぞれ分かれて学習するというスタイルにした。

ただし、用意していただいたものをそのまま体験するだけでは、自ら課題を持って学習していくという姿勢にはならないので、事前に自分たちが学ぶジャンルを中心に各班でいくつかの質問を用意した。

（3）当日の取り組み

4月の班編制の時から、修学旅行を想定して取り組んできたことが功を奏し、事前の取り組みの段階から、不登校傾向だった生徒を参加させられた。そしてその流れの中で全員が当日に参加できたことは大きな成果だった。その2組Cさんの作文を紹介する。

みんなと行動できてすごくうれしかった。今まで他の部屋にいて、全然教室に入れなくて…。修学旅行に本当に行けるかどうかわからなかったけど、みんなと電車乗ったり、バスに乗ったり、みんなと行動できたことが本当にうれしかった。修学旅行に行けたのは、Yちゃん（班員）とかいろんな人のおかげなんだなあ。（C、K）

さて、準備に多大な時間を要した官公庁の分散学習であるが、どの班も規定時間に目的地に達し、それなりの学習をしてきた。緊張した面持ちで話を聞き、メモをとり、最後は、ホテルまでの道筋と所要時間を気にしながらの学習だった。想像通り、相手側の都合などによって事前に聞いていたよりも時間がかかり、集合時間を10分遅れる班もあったが、事後のまとめを見るに、ほぼ成功と言える内容だったと思う。



2日目の分散学習では、これも想像通り、いくつかの班が時間配分を甘く考えたために見学時間がほとんどなかったり、地下鉄を乗り間違えたりして打ち合わせた時間に到着できなかったりしたが、学習目的の訪問先にはすべての班が到着し、これもそれなりに学習できたようだ。ただし、博物館形式（案内や説明なしで見学するだけ）の訪問先を選んだところは、もう一つ学習が深められなかったようだ。よほど目的や意欲をしっかりとっていないと難しいだろうと思われた。

3日目の川崎ふれあい館では、体験学習を優先したいということで、事前に考えてあった質問は、最後に館長さんからまとめて返答をいただくという形にはなったが、まず、ジャンル別の体験学習には、どの生徒も主体的に参加することができ、短い時間ではあったが、韓国文化の一部に触れるという目的は達せられたように思う。最後の館長さんの話は、とても中学生にわかりやすい内容に帰納されており、印象に残った生徒が多いようである。以下、1名の作文を紹介する。

私は修学旅行という大きな行事を終えて、いろいろな気持ちを持ちました。その中でも一番考えたことはふれあい館での館長さんの話でした。館長さんの話の中に「がんばれ」という言葉についての話がありました。「人はよくがんばれと言います。でも、その言葉をかける相手をちゃんと考えていますか。例えばいじめられている子といじている子がいたら、ほとんどの人はいじめられている子にがんばれと声をかけます。でもいじめられている子はすでに精一杯がんばっているのです。がんばれと声をかけなければならないのは、いじている子の方なのです。心の成長を応援してあげなければならないのです。」というように私は館長さんの話をとらえました。そして私もこのようにがんばれと声をかけているのは、いじめられている子の方でした。私自身、何もそういうことは考えずに、その子の気持ちも考えずに発言していたんだなと思いました。だからこれからは、一言一言、誰に対してどういう言葉をかけるべきか考えようと思いました。

そして最後に生徒代表のT君が自分たちのこれまでの姿やこれからの決意を含めた、とても素晴らしいお礼の言葉を述べて閉会となった。

（4）事後の取り組み

事後の取り組みは、修学旅行直後の学活と総合の時間3時間及び放課後の活動を使った。具体的には、実行委員会からの個人の反省の後、まず修学旅行を通してお世話になった方へのお礼状を書いた。官公庁をはじめとする見学先の職員の方、添乗員さん、ホテル、ふれあい館など1人1通のハガキを送った。数日後、その返事が戻ってきたりして、様々な人とのふれあいの中で自らの生き方を考えるなど得るものが多かった。

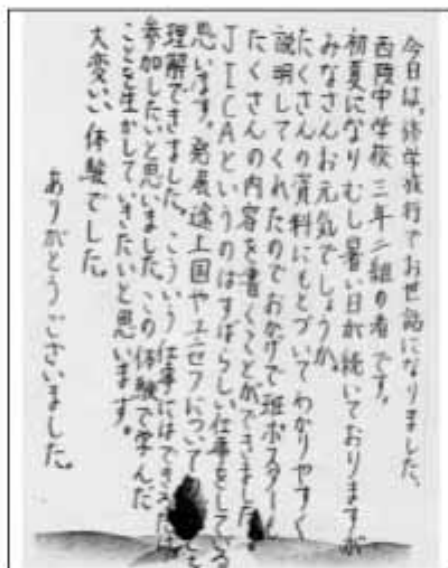
そして、官公庁への訪問と班別分散学習とふれあい館での学習を中心に学んだことを壁新聞にまとめる取り組みを行なった。分担して、班員全員が参加できる形にすることや学んだ内容がはっきりわかるものにすること、レイアウトなどを工夫して見やすくすることなどを指導した。完成作品は1学期の保護者懇談会まで公開した。

また、事前学習、修学旅行中、事後学習にわたる取り組みについての自己評価および生徒相互の評価をすることで、自分自身の成長を振り返ることができた。さらに、自分を見つめ、仲間を見つめ、社会を見つめ将来を展望できる力へとつなげていきたい。

【壁新聞コンクール】



【お世話になった方へのお礼状】



修学旅行の取り組み振り返りシート（自己評価）		3年 組 原 (聖) 長巻 北川 美子	
項目	項目	評価	
関心	自分には自分なりに興味を持って参加していたか	1-3-①-1-1	修学旅行では積極的に参加して楽しかった。
	修学旅行の準備に思いやりを感じたか	1-3-①-1-2	仲間を思いやりを表現して楽しかった。
態度	自分の態度、声の大きさ、立ち振る舞いなどが周囲の人に伝わったか	1-3-②-1-1	礼儀正しく、仲良く過ごした。
	周囲の態度、声の大きさ、立ち振る舞いなどが自分に伝わったか	1-3-②-1-2	礼儀正しく、仲良く過ごした。
感情	修学旅行の準備に思いやりを感じたか	1-3-③-1-1	仲間を思いやりを表現して楽しかった。
	周囲の態度、声の大きさ、立ち振る舞いなどが自分に伝わったか	1-3-③-1-2	礼儀正しく、仲良く過ごした。
知識	修学旅行の準備に思いやりを感じたか	1-3-④-1-1	仲間を思いやりを表現して楽しかった。
	周囲の態度、声の大きさ、立ち振る舞いなどが自分に伝わったか	1-3-④-1-2	礼儀正しく、仲良く過ごした。
理解	修学旅行の準備に思いやりを感じたか	1-3-⑤-1-1	仲間を思いやりを表現して楽しかった。
	周囲の態度、声の大きさ、立ち振る舞いなどが自分に伝わったか	1-3-⑤-1-2	礼儀正しく、仲良く過ごした。
表現	修学旅行の準備に思いやりを感じたか	1-3-⑥-1-1	仲間を思いやりを表現して楽しかった。
	周囲の態度、声の大きさ、立ち振る舞いなどが自分に伝わったか	1-3-⑥-1-2	礼儀正しく、仲良く過ごした。
技能	修学旅行の準備に思いやりを感じたか	1-3-⑦-1-1	仲間を思いやりを表現して楽しかった。
	周囲の態度、声の大きさ、立ち振る舞いなどが自分に伝わったか	1-3-⑦-1-2	礼儀正しく、仲良く過ごした。

振り返りシートは、修学旅行の振り返りシートとして、よく思い出して、しっかりと書いてください。振り返りシートは、振り返りシートとして、よく思い出して、しっかりと書いてください。

4. 課題と2学期の展望

修学旅行の取り組み全体を通して、生徒は自分たちで行程などを計画・立案し、「自分たちで創り上げていった」という満足感は少なからず持ったと感じる。ただ、生徒自身が官公庁などに連絡をとり、自分たちでファックスを送っていた。しかし、「担当の先生に変わってもらえますか」とか、送られてくるファックスも生徒宛ではなく、その担当の先生宛というように、生徒が自分たちの力で訪問先を決めたという満足感は得られなかったように思う。

また、様々な人との出会いや班別分散学習を通して、お互いの良さを発見し、お互いを認め合うことができた。さらに、自分の将来に目を向けようとする生徒の姿が見られた。

教師側の反省としては、内容が非常に盛りだくさんで、教師集団の生徒の計画に対する練り上げがしっかりできず、生徒の事前の取り組みの時間の保障が難しかったことがあげられる。

2学期以降、生徒たちは進路決定を間近に控えて、自らの将来について具体的な目標を持ち、それに向けて努力できる意欲を養うことが第一義になってくるが、義務教育最後の半年で、自分と社会の関わりについて、テーマを絞り込んで主体的に学習させていきたいと願っている。



【川崎ふれあい館訪問についての取り組み】

○ 取り組みの経緯

三年生は、社会科の学習を中心にしながら、在日コリアン問題について二年時から歴史を中心に学習してきた。「日本は朝鮮半島から進んだ文化を取り入れ、それを熟成してきた歴史はあるものの、秀吉の朝鮮侵略や韓国併合にみられるような韓国・朝鮮人にとって屈辱的な過去もある。」生徒はその学習で、日本の非道な政策や日本人の中に韓国・朝鮮人に対する蔑視する見方がでてきたことを学んできた。

関東大震災時の在日朝鮮人虐殺事件で、川崎市の大川警察署長さんが300人あまりの朝鮮人を警察署にかこい、暴徒から朝鮮人の命を守った事も学んだ。その大川さんが眠る川崎市は、全国でも在日コリアン問題への取り組みが進んでいる地域でもある。その先頭に立って取り組んでいる施設がふれあい館である。3年生の修学旅行ではぜひこのふれあい館を訪問し、在日コリアン問題に対する川崎市の取り組みを生徒に学ばせたい、という強い教師側の思い入れのもとに取り組んだ。

○ 現状からの出発

差別問題を教材として扱うとき、差別の悲惨な状況を生徒に教えがちで、生徒は差別に対して怒りや憤りはもつものの、それが現実の自分たちの生活や生き方につなげて考えることは少ない。それが、遠い過去の問題やひと昔前の出来事であれば、それはその時のことであり、その教訓は生かされて、現在はその問題がないととらえる生徒も少なくない。そこで、「今も差別があり、そのことで心を傷めている人がいる」ということを生徒にわかりやすくとらえさせようとした。

第1次 「何故、在日韓国・朝鮮人問題を学習するのか」 <2年時>

下記の質問を生徒になげかけながら社会で学習した事や自分自身の考えを発表させた。

- ・今、日本の人口は？
 - ・そのうち、在日外国人は何人いるの？
 - ・その内訳は？
 - ・では、四日市市の人口は？
 - ・市内には、在日外国人は何人いるの？
 - ・その内訳は？
 - ・何故、四日市は在日韓国・朝鮮人が多いのか？

第2次 「文さんにはられたレッテル」 三重県の中学生の作文から <2年時>

お父さんの友達のお文さんが結婚差別にあったとき、お父さんが何度も相手の女性の家へ行って、お文さんの事を話し、4年後、お文さんはその女性と結婚した。人として生きるために自己の主張を曲げなかったお文さん。そのお文さんを支援していったお父さんを誇りに思う。という作文である。

なるべく身近な教材を選定し、生徒にプラスイメージでとらえさせたい、ということ

、上記の作文を資料として選んだ。生徒と同じ年代の、しかも県内の自分たちと同じ年代の中学生作文ということもあり、生徒の多くは強い関心をもった。

第3次 「在日朝鮮人として考えること」 川崎市の中学生の作文から <2年時>

(全国中学生人権作文コンテスト入賞作文集より) 韓

国人である作者が、家の引っ越しで心はずませて、家族と引っ越し先の物件をあたるために、不動産屋を訪ねるが、「韓国籍」ということで断られ、11軒目でやっといい返事をもらったという日本社会の不合理さを訴えている作文である。

修学旅行で訪れる川崎に住む中学生の作文で、在日朝鮮人の立場での、不合理な日本社会に対する怒りが伝わってくる作文である。生徒は作者の立場で考え、共感することができた。また、自分の身近なところでも起こりうることで、他にも自分たちの知らないところで、今も心傷めている人がいることを感じとったようである。

第4次 「何故、川崎に行くのか」 (学年集会)

<2年時>

1965年の日韓条約の締結に伴って、国は協定永住権をもつ外国人にだけ国民健康保険の適用を認めたが、川崎市は1972年全外国人に等しくその適用を決めた。

その後、児童手当の支給、市営住宅の入居など、全国に先駆けて、市独自の判断で国籍制限を撤廃してきた。1988年には、日本人と在日外国人がふれあいを進めるための「ふれあい館」を設立した。現在は公設民営で運営されている。

1980年代後半、指紋押捺制度の是非が社会問題化した。市長は議会で「法も規制も人間愛を超えるものでない」と発言し、指紋押捺拒否者を警察に告発しないという当時としては異例の方針を打ち出した。

1991年には「外国籍市民問題担当」の国際室が設けられ、また、外国籍市民に対する施策を研究するための委員会も設置された。

1996年には全国に先駆けて、居住歴一年以上の外国人20人で構成される「外国人代

表者会議」を発足させ、参政権に代わる外国人市民の市政参加の施策を打ち出した。

第1～3次をうけて、また社会科での学習をふまえて、修学旅行で、何故、川崎を訪れるのかを、上記の内容を盛り込みながら生徒に話をした。

春休みに、教師が「ふれあい館」を訪問し、修学旅行当日の学習会のもちかたについて、館長さんと打ち合わせを行った。全体会后、「遊び」・「楽器」・「衣服」の3つのグループに分かれて朝鮮の文化を学ぶことにした。

第5次 ビデオ「故郷をつくるまち」・「ふれあい館自主制作ビデオ」 4/

修学旅行で訪れる川崎市の「コリアタウン構想」についてのビデオであった。訪問先のふれあい館の事も取り上げられていた。また、修学旅行の下見でお借りした自主制作ビデオ

オも見せた。共に修学旅行の事前学習としては適した教材であった。

第6次 ふれあい館でのテーマ別班別分け 5/17 質問事項の検討 5/28

3つのテーマに班を分け、それぞれ質問したいことを各班でまとめ、テーマ別に整理した。

第7次 修学旅行後に班ごとで作成する壁新聞のレイアウトを考える。 5/31

第8次 ふれあい館訪問 6/6

修学旅行の3日目ということもあり、疲れている生徒も多かったが、館長さんの話や チマ・チョゴリを着たり、朝鮮の楽器演奏など、朝鮮文化にふれることができ、生徒は興味をもって聞いていた。

学習会を終えてから、コリアンタウンを歩きながら見学し、焼肉屋に向かった。朝鮮の食文化の一つである焼肉屋がいくつも軒を連ねる中の一軒で昼食をとった。

この焼肉は生徒に好評であった。

第9次 壁新聞づくり 6/7～

事前に相談しておいた壁新聞のレイアウトをもとに、記事をまとめながら、各班で壁新聞づくりが始まった。日増しに、それぞれユニークな壁新聞ができあがっていった。完成後は、中央廊下に掲示し在校生や保護者にも見てもらった。

【成果と課題】

12. 事後活動

- ・各係会議、班の反省、個人の反省をもとに実行委員会で反省会。
- ・学習したことや思い出を各班新聞形式で作成、中央廊下に掲示発表。
- ・個人感想作文。 ・お世話になった方への礼状作成送付

13. 評価（今後の生活に生かすために）

- ・事前の話し合いや、計画作りに進んで参加し、個人や集団の力が高まったか。
- ・計画に従った行動ができ、東京都内の見聞を広め、人権意識が深まったか。
- ・係の仕事に責任を持ち、実行できたか。